

## 平成27年度 第1回摂津市民図書館等協議会 要点録

日時:平成 27 年 5 月 18 日(月)

午前 10 時 00 分～11 時 30 分

場所:摂津市民図書館 3 階 小会議室

出席委員: 7 名

欠席委員: 3 名

事務局: 6 名

案件: 1. モニタリング評価結果報告(平成 26 年度第 4 四半期および平成 26 年度総合)  
2. その他

1. モニタリング評価結果報告(平成 26 年度第 4 四半期および平成 26 年度総合)について  
(事務局) モニタリング評価結果 (平成 26 年度第 4 四半期および平成 26 年度総合)  
について説明。

(委 員) 近々、読書ラウンジにコーヒーの自動販売機が入るのか。

(事務局) もう少しお待ちいただきたい。

(委 員) 読書ラウンジと学習室は違うのか。

(事務局) 鳥飼図書センターは学習室を設置しているが、市民図書館 (以下「図書館」と言う) には学習室を設置していない。

ただし、図書館のレファレンスルームで調べ物をする利用者がいなければ、学習スペースとして利用できる。

読書ラウンジはレファレンスルームと同様に、貸出手続きした図書を持ち込んで学習スペースとして利用ができ、私語も可能である。

(委 員) コミュニティプラザで開催している図書館主催のイベントの広報を強化してはどうか。

(事務局) 秋の図書館システム変更により、出張おはなし会などのイベントは図書館のホームページからお知らせができるようになる。

図書館の障害者関連のイベントなどは、障害福祉課の窓口にチラシを置いたり、社会福祉協議会を通じてお知らせをしていきたい。

今後、新しいお知らせの方法も考えていく。

(委員) チェックシートの「クレームへの対応状況」の評価方法について教えて欲しい。

(事務局) 投書箱を館内に置いて、利用者から意見を入れていただいている。  
その際の意見やクレームと回答を館内に掲示しているので、閲覧して評価していただきたい。  
今後、利用者からの意見やクレームなどは、書面などで図書館等協議会委員にお知らせしていく。

(委員) 1階のカウンター前の椅子の横に手荷物用の机を置く予定はあるのか。  
また、館内に利用者用の棚などを作る予定はないのか。

(事務局) 席に余裕がある場合は、隣の席に荷物を置いてもらっているが、満席の場合は、他の利用者の迷惑になるのでご遠慮いただいている。  
棚などを設置する予定はない。

## 2. その他

(委員) 図書館に登録していない摂津市の視覚障害者の方々に音声訳グループ SEI が作っている録音図書の日録をお知らせできないか。

(事務局) 現在、障害福祉課と話を進めているので、お待ちいただきたい。

(委員) 3月13日(金)にコミュニティプラザで開催した「こころもあつたか、親子のきずな教室」のイベントは、一時保育が必要だったのではないか。

(事務局) 平成27年度から図書館流通センターでも保育事業者と連携していくことになったので、今後は保育サービスを合わせもった図書館イベントを計画していきたい。

(事務局) 摂津市と吹田市が、平成27年5月1日(金)に摂津市民図書館と吹田市立千里丘図書館の相互利用に関する協定を締結した内容について説明。(以下、「千里丘図書館」という。)

(委員) 大阪市立大学図書館や大阪府立大学図書館の学術図書を相互貸借で借りることができるのか。  
大阪府立図書館や他市から取り寄せた相互貸借本は、いつ届くのか。

(事務局) 利用者の優先順位はあるが、大阪府立大学図書館の学術図書を相互貸借で借りることができる。  
各自治体からの相互貸借本は、週1回の府立便で図書館に届く。

- (委員) 千里丘図書館との相互利用のメリットと休館日について教えて欲しい。
- (事務局) 千里丘地域の方は、摂津市民図書館を利用するより千里丘図書館の方が近いので便利である。  
休館日は、毎月最終木曜日と年末年始。
- (委員) 千里丘図書館の図書はどちらに返却するのか。
- (事務局) 借りた図書館へ返却していただきたい。
- (委員) チェックシートの評価が難しかったので、今後は評価の項目の説明をもっと詳細にして欲しい。
- (事務局) 評価モニタリングの基準については、5年間の指定管理者の経年変化を同じ基準で評価するという観点から、途中で変更することが難しい。  
次の5年間のチェックシートでは、評価の基準を見直し、直観的にわかりやすく評価できるよう変更したいと考えている。
- (委員) C評価は、厳しいのではないかと。  
四半期総合評価でAかBにならないと、意味がないのではないかと。
- (事務局) 評価の仕様部分でC評価の点数の幅が広いため、C評価が続いている。  
評価点数の見直しが必要であると考えている。
- (委員) 図書の電子化について今後どうなるのか。
- (事務局) 図書館の開館時間内に来館できない方や高齢者・障害者などへの活字サービスの提供の観点から、電子書籍導入のメリットは大きいと考えている。  
視覚障害者の方には、活字音声読み上げサービスがあり、視力が悪い方には、大活字に変更できるサービスがある。  
将来的には、公立図書館で電子書籍は普及すると考えているので、適切な時期に電子書籍を図書館に入れていきたい。